

多職種連携円滑化の潤滑油に

在宅療養支援診療所で存在感

平賀愛さんは、在宅療養支援診療所「医療法人双樹会よしき往診クリニック」(京都市)で働く薬剤師だ。在宅医療は、診療所のスタッフだけでなく、地域の多職種が関わる総合的なチームで行うもの。平賀さんは、診療所内のチーム医療の円滑化に貢献するほか、院外処方箋の調剤や訪問薬剤管理指導を担当する薬局薬剤師の窓口にもなって、診療所の内外を問わず多職種が上手く連動して機能する“潤滑油”としての役割を果たしている。近年の在宅医療の広がりによって、こうした薬剤師の業務が新たに生まれた。「患者さんの生活まで支えられるのは達成感がある」と語る。

医療法人双樹会
よしき往診クリニック

平賀 愛さん



よしき往診クリニックは、住み慣れた自宅や地域で住民が人生を全うできるように、患者やその家族を支える医療機関。医師の守上佳樹院長が病院の総合内科医として約10年間勤務した経験を踏まえ、2017年4月に設立した。「患者や家族が安心して過ごせるように24時間、365日支える医療機関が地域にないなら、自分でつくるしかない」との決意が

背景にある。

現在は常勤医師4人、非常勤医師十数人、看護師3人、薬剤師1人、医療事務6人、広報2人、庶務1人のスタッフで約200人の在宅患者を受け持ち、看取り率は69.6% (n =117、17年4月~19年3月)に達している。

平賀さんはよしき往診クリニックの発足時からスタッフに加わった。守上院長は小学生時代を兵庫県の芦屋市で過ごした幼なじみ。社会人になってからも顔を合わせる機会があり、診療所の発足計画を聞きつけて「立ち上げに加わりたい」と手を上げた。

それまでは10年間、関東のドラッグストア併設



仕事には「達成感がある」と語る平賀さん

調剤薬局で働いていた。そもそも神戸電子専門学校を卒業した後に、帝京大学薬学部に入學し学び直したのは、阪神淡路大震災を経験したからだ。災害などで苦しむ人を支える仕事をしたいと考えて薬学部を選び、薬剤師になった。調剤薬局ではその実感が少なく、産休を機会に自分がやりたかったことを見つめ直して、患者に深く関わることができる在宅医療の世界に飛び込んだ。

(8ページへ続く)



新卒生限定10泊12日 ハワイ研修実施!

入社後すぐ!

関西圏を中心に全国へオレンジ・元気薬局を展開

初年度年収 **450~550万**



希望エリアでの勤務OK! 働き方次第で高収入も可能! あなたの頑張りを評価します

グループ会社多数! (株)プチファーマシスト (株)オレンジファーマシー
全国に130店舗展開中 (株)東京オレンジ薬局 (株)ファミリー薬局

インターンシップ参加者募集

オレンジ・元気薬局

検索



薬剤師 国家試験 対策.com

薬剤師を目指す薬学生のための
国家試験対策支援サイトです



ご登録・ご利用完全無料

be89314

検索